

3. 都市交通

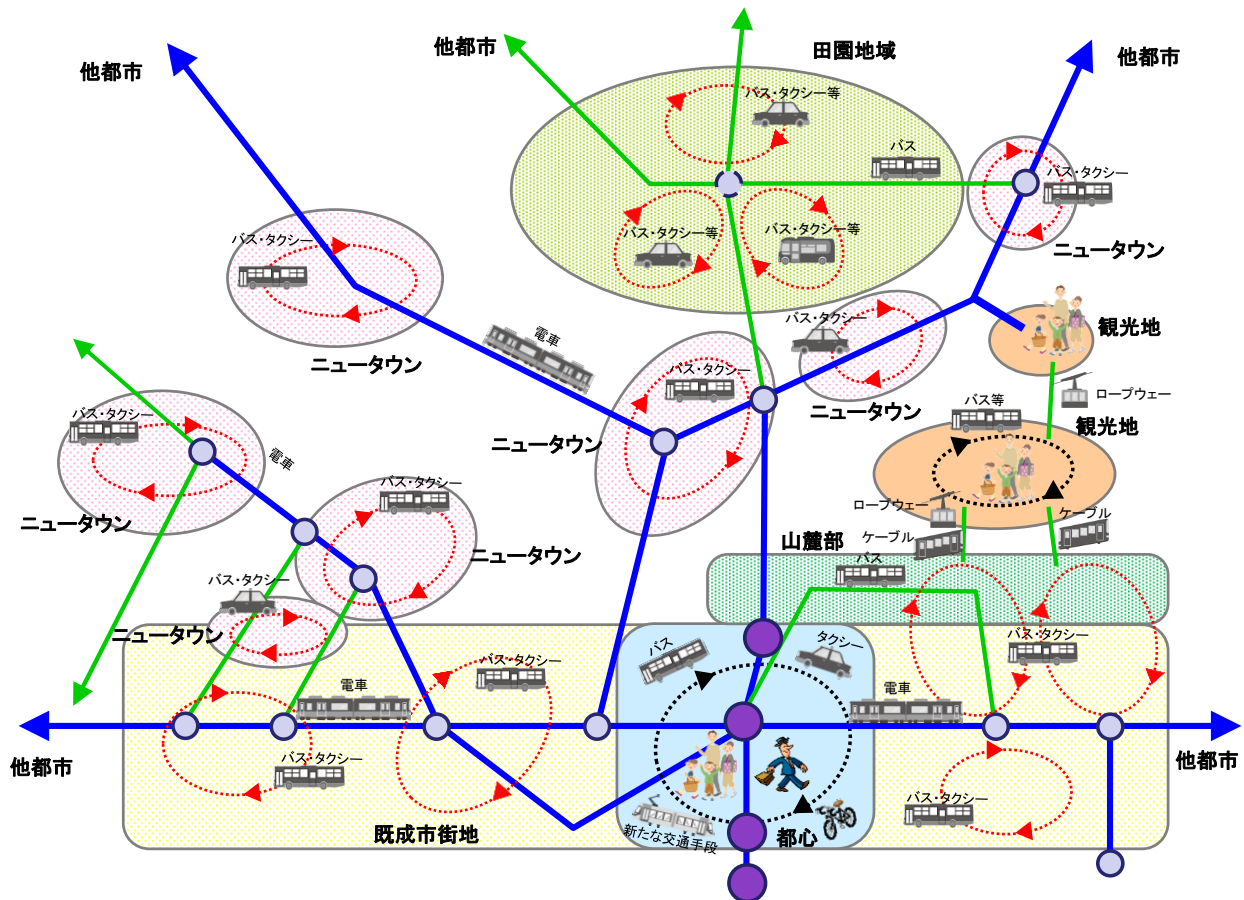
■交通ネットワーク

人と物の円滑な流れや知の交流などの多様な都市活動を促進し、これからの神戸の活力・魅力あるまちづくりを支えるために、神戸港や神戸空港などの機能強化をはじめ、市域を超える広域交通ネットワークと連携をはかりながら、環境にも配慮した陸・海・空の総合的な交通環境の形成をめざします。

また、超高齢化の進行をふまえた、すべての人にやさしく、暮らしやすいまちづくりや、低炭素都市を実現するために、市民の自発的な行動転換を促すとともに、鉄道やバスなどの公共交通を中心とした交通ネットワークの維持・形成を推進します。

このようなまちづくりの実現に向けて、平成 29 年 3 月には、神戸市総合交通計画の基本方針を踏まえた「神戸市地域公共交通網形成計画」を策定し、公共交通を中心としたコンパクトなまちづくりの積極的な推進と、公共交通の維持・充実にに向けた取り組みを進めています。

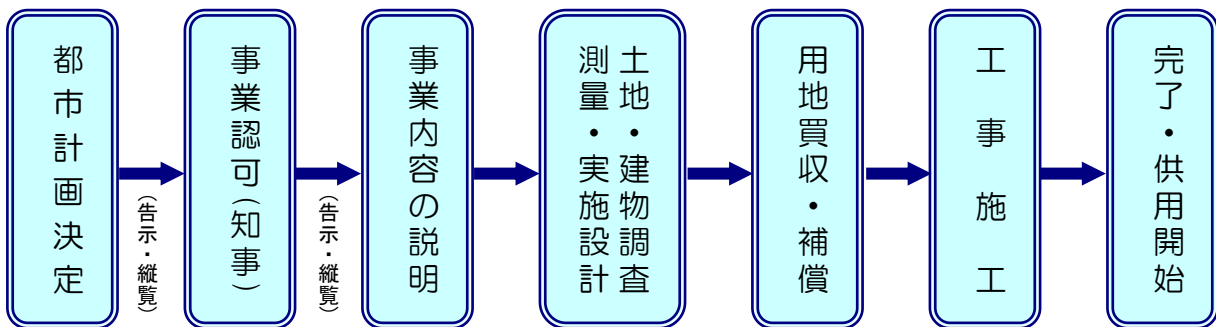
公共交通ネットワークの将来像



■街路事業

街路事業は、都市計画道路を用地買収方式により整備する手法であり、幹線道路の整備のほかに、沿道市街地との一体的な道路整備、鉄道との連続立体交差事業、鉄道駅の自由通路など交通結節点の整備などを行っています。また、都心部では、歩行者の安全かつ快適な通行や回遊性、利便性を確保するために、地下・地上・デッキの各層レベルに応じた歩行者通路のネットワーク(3層ネットワーク)の整備を行っています。

◆都市計画決定から整備までの流れ◆



◆都市計画決定状況と整備状況◆

(平成31年4月現在)

区分	計画延長 (km)	路線数	完成 (km)	事業中 (km)	未着手 (km)
自動車専用道路	136.88	13	106.23	20.64	10.01
幹線街路	602.96	286	541.64	15.67	45.66
区画街路	34.83	195	30.79	3.87	0.17
特殊街路	21.62	48	21.57	0.00	0.05
計	796.29 (100%)	542	700.23 (87.94%)	40.18 (5.05%)	55.89 (7.02%)

◆最近の街路事業の事例◆



灘 駅 線 (自 由 通 路)



摂津本山 駅 線 (自 由 通 路)



神 戸 三 田 線 (大 池) 等
(沿 道 整 備 街 路 事 業)



阪 神 電 鉄 連 続 立 体 交 差 事 業



三 宮 駅 前 東 線 (デ ッ キ)



三 宮 駅 前 東 地 下 線 (地 下 通 路)

■交通結節機能の向上(三宮駅)

神戸の玄関口である三宮駅周辺は、商業、業務、文化施設等が集積するとともに、JR、阪急、阪神、地下鉄、ポートライナー等の6つの駅が集まり、1日約70万人の鉄道乗降客が利用する市内最大のターミナルです。またポートライナーにより神戸空港とも結ばれていることから、空の交通との結節点としても重要な拠点となっています。

これまでも駅改良や公共施設整備等を進めてきましたが、今後は、「三宮周辺地区の『再整備基本構想』(平成27年9月策定)」において位置づけた、「えき=まち空間」の実現を目指し、取り組みを進めていきます。

具体的には、

- ・「三宮クロススクエア」の創出により、駅からまちへの回遊性を向上
 - ・分かりやすい縦動線の整備による、3層ネットワークの強化・乗換え動線の「見通し」の確保等により、駅と駅とのつながりを強化
 - ・駅前広場機能の再配分と駅周辺の歩行者空間の整備
 - ・都心における公共交通(LRT・BRT・循環バス)等やシェアサイクルなど、多様な回遊手段の確保
 - ・新たなバスターミナルの整備による、現在分散している中・長距離バス乗降場の集約
 - ・現在分散している路線バス乗降場の方面別の集約
- などを推進し、「誰にでも分かりやすい交通結節点」を目指します。

●3層ネットワークの強化

三宮駅周辺において、公共空間や民間ビルの再開発等にあわせて、地下・地上・デッキレベルにおける歩行者動線の3層ネットワークの強化を推進するとともに、ユニバーサルデザインにも配慮し、エレベーター等の整備もあわせて推進しています。

<地下レベル>



三宮駅前東地下線(地下通路) 整備完了
(阪神三宮駅東改札口とあわせて整備)
平成24年3月20日供用開始
延長:約50m
幅員:約6m

<地上・デッキレベル>



三宮駅前東線(デッキ) 整備完了
平成24年7月30日 中央幹線横断部 供用開始
延長:約130m
幅員:約4~16m
エレベーター:2基



●阪神三宮駅の改良

阪神三宮駅は、西側1箇所の改札口のため、ラッシュ時には大変混雑する上、火災時の円滑な避難など防災上の課題を抱えていました。

そこで阪神三宮駅では、駅施設の利用円滑化と交通結節機能の高度化を図り、駅全体の改良(東改札口の新設、駅構内配線の変更、エレベーターの新設、プラットホームの拡幅・延伸、駅排煙設備新設など)に取り組み、平成25年3月20日に完了しました。なお、平成24年3月20日に東改札口が供用開始し、ラッシュ時の混雑緩和や災害時などの2方向避難路が確保されました。加えて、平成24年度に阪神電鉄が行った西改札口前通路の拡幅にあわせ、西改札口周辺における天井、壁面などの改修や案内サインの整備を行うなど、魅力的な地下空間を創出しました。



阪神三宮駅東改札口(平成24年3月20日供用開始)



阪神三宮駅西改札口前

●新たなバスターミナルの整備

現在、三宮駅周辺に分散している中・長距離バス乗降場をミント神戸に隣接する雲井通5・6丁目エリアに集約し、新たなバスターミナルを整備することについて、平成30年3月に「新たな中・長距離バスターミナルの整備に向けた雲井通5・6丁目再整備基本計画」を策定しました。

今後は、段階的な整備に向けて、I期雲井通5丁目エリアについては、平成30年5月に設立された雲井通5丁目再開発株式会社が中心となり、地元地権者の方々やバス事業者の意向等を踏まえ、令和8年頃のI期バスターミナル整備を目指しています。



三宮バスターミナル



三宮バスターミナル 待合室